

3

東海豪雨災害前の住民の諸像

水害時において、避難行動をはじめとする住民の対応行動は、これまでの水害経験や、地域や河川整備の安全性に対する認識のありようにより異なるものと考えられる。そこで本章では、水害時の対応行動に影響を与えると考えられる東海豪雨災害以前の住民の諸像について、その実態を把握する。具体的には、伊勢湾台風や平成3年の台風18号により発生した水害の経験、水害に対する住民意識、地域や河川の水害に対する危険性の認識などを問うている。

3.1 過去の水害経験

Point

- ・約半数の住民は、昭和34年の伊勢湾台風を経験しているが、その多くは浸水被害を受けていない。
- ・平成3年時の水害をほとんどの住民は経験しているが、浸水被害を受けたとする住民の割合は少ない。特に西枇杷島町、新川町、名古屋市西区において浸水被害を受けたとする住民の割合は少ない。
- ・東海豪雨災害までに、床上まで達するような浸水被害を経験した住民は少数である。

ここでは、東海地方に甚大な被害をもたらした昭和34年の伊勢湾台風や平成3年の台風18号などの過去に発生した水害の経験に関する実態について、図3-1-1～図3-1-4に示し、その実態を把握する。

(1) 伊勢湾台風の経験

- ・図3-1-1より、回答者のおよそ半数は伊勢湾台風を経験していることがわかる。
- ・伊勢湾台風により浸水被害を受けたとする回答者の割合は少なく、床上まで浸水が達したとする回答者は、多いところでも名古屋市天白区で10%程度であることがわかる。

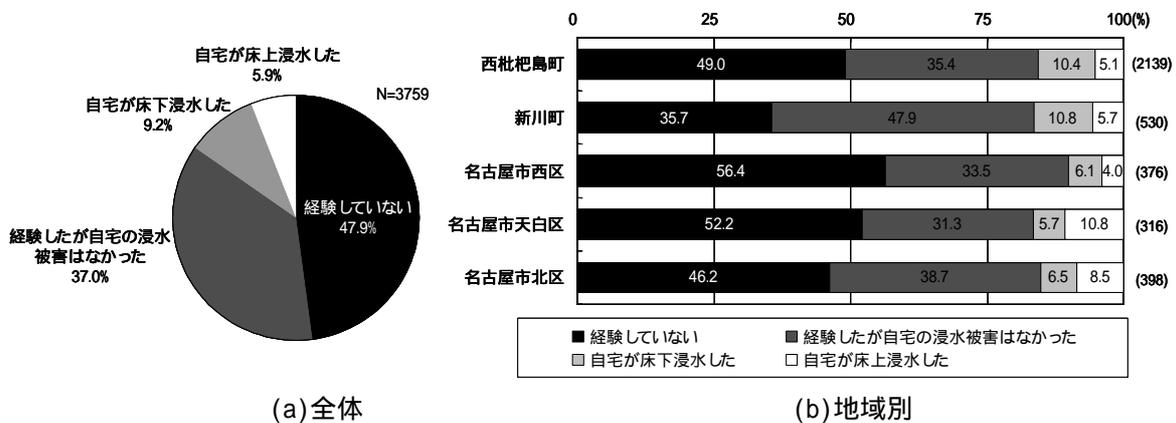


図3-1-1 伊勢湾台風の経験実態

(2) 平成3年9月台風18号による水害経験

- ・住民の80%程度が、平成3年9月の台風18号を経験している。しかし、そのほとんどの住民は浸水被害を受けておらず、特に西枇杷島町、新川町、名古屋市西区において浸水被害を受けたとする住民の割合はごく少数である。

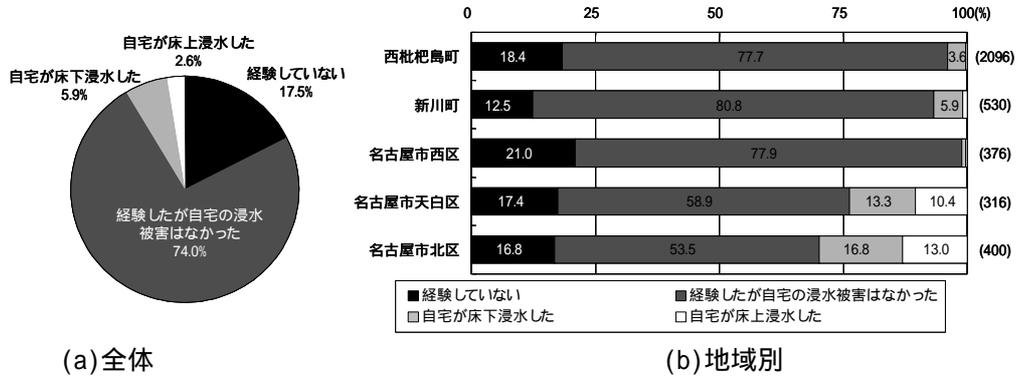


図 3-1-2 平成3年台風18号による水害の経験

(3) 水害による被害経験の回数

- ・図 3-1-3 ならびに図 3-1-4 から、東海豪雨災害以前に床下浸水を経験したという住民はおよそ25%、床上浸水を経験したという住民は13%にとどまっていることがわかる。
- ・これまでの集計から、多くの住民は、東海豪雨災害以前において浸水被害を被るような水害を経験していなかったことが明らかである。

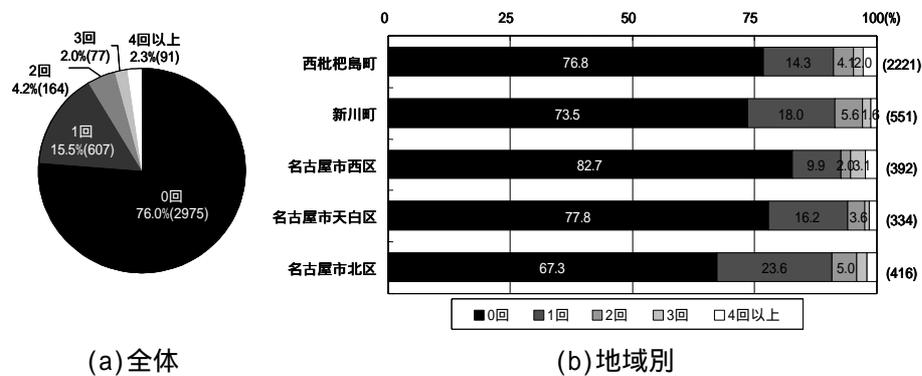


図 3-1-3 床下浸水の経験回数

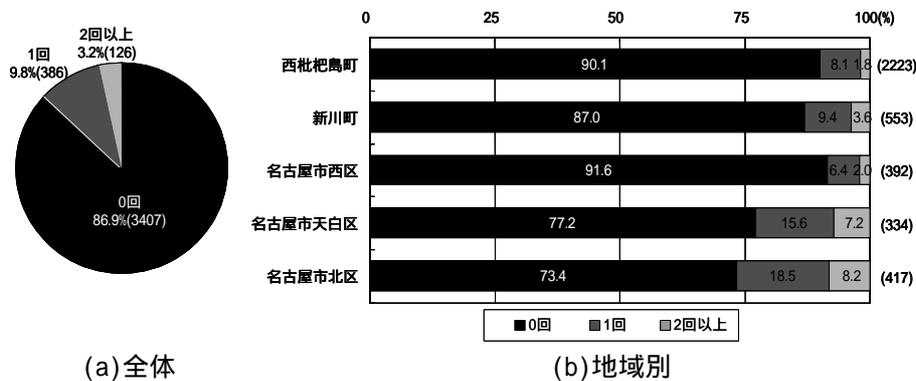


図 3-1-4 床上浸水の経験回数

3.2 被災前の備え

Point

- ・水害に対応する家屋保険に加入していた世帯は、半数に満たない。
- ・東海豪雨災害以前に非常用の食糧や非常持ち出し品の準備をしていた世帯は40%以下である。

ここでは、東海豪雨災害以前から行っていた住民の水害に対する備えについて、その実態を把握する。具体的には図3-2-1に示すような項目について問うている。

- ・全ての地域において、水害に対応する家屋保険に加入していたという世帯は半数に満たない。
- ・東海豪雨災害以前に、非常用の食料や非常持ち出し品の準備をしていた世帯は40%以下である。西枇杷島町においては、数日分の食料を持参のうえ避難をするよう、地域防災計画では定められていたが、その準備をしていた世帯は35%程度であった。
- ・30%以上の世帯が家の土台を高くする工夫をしており、特に新川町においてその割合が多い。また、部屋を2階からにする工夫（ピロティ形式の建築方法）も10%前後行われている。

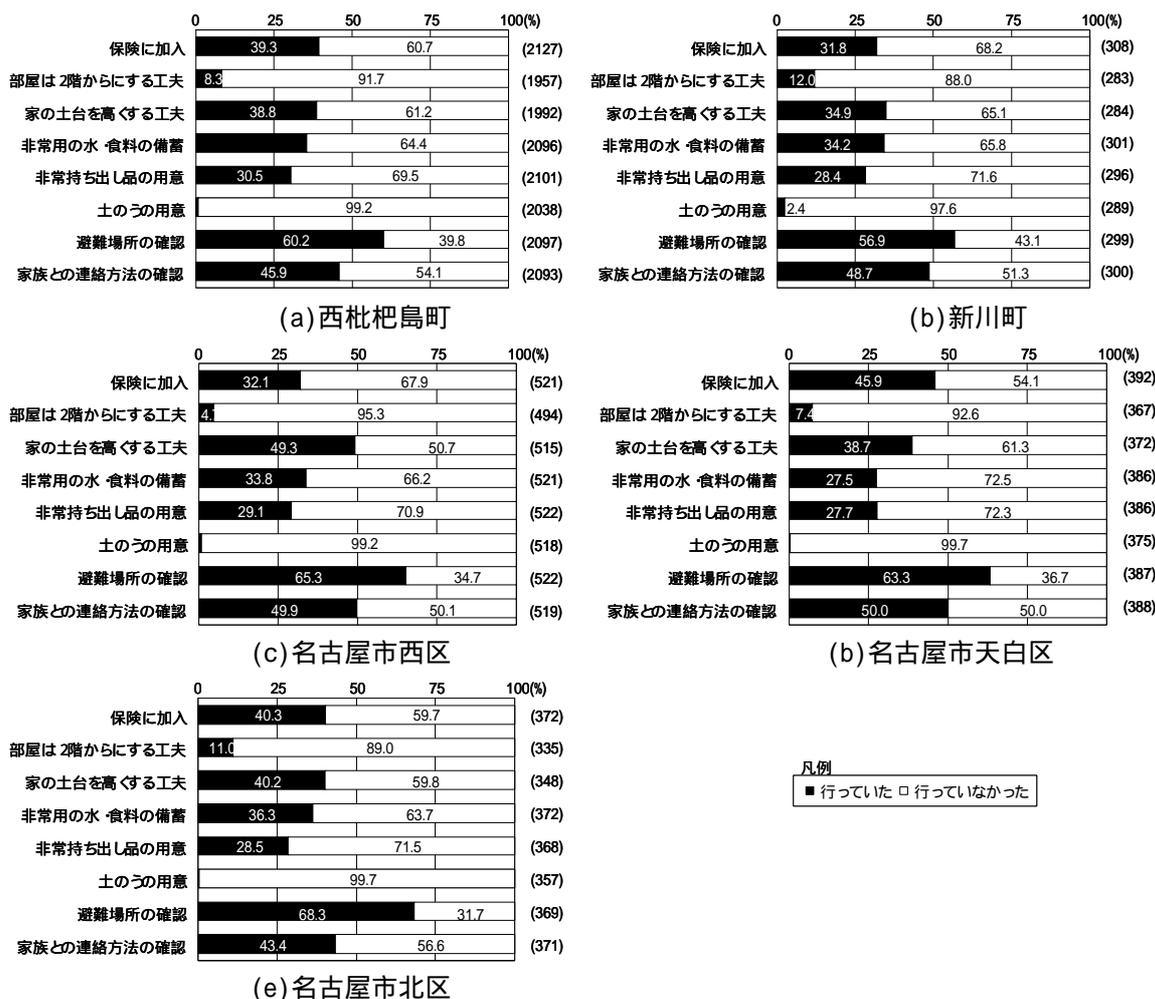


図3-2-1 地域別にみる被災前の水害の備え

3.3 被災前の水害意識

Point

- ・半数以上の住民は、自宅が浸水被害にあうことを想定していなかった。また、想定していた住民においても、床上浸水を想定していた住民はわずかである。
- ・西枇杷島町、名古屋市西区、天白区の住民については、その多くが今回のような水害が地域において発生するとは思っていなかった。
- ・名古屋市天白区においては、多くの住民がポンプの新設により甚大な被害はもう発生しないと思っていた。
- ・今回のような豪雨やそれぞれの地域の河川の破堤や溢水の発生を想定していた回答者の割合は 50%前後と高いものの、それが浸水被害をもたらすという認識に結びついていなかった。(HAZARD は想定していたが、DISASTER は想定していなかった)

本節では、東海豪雨災害以前の住民の水害に対する意識の実態を把握する。まず、(1)では自宅の浸水被害の可能性に関する認識の実態、(2)では地域の水害に対する危険性に関する認識、(3)では地域に関わる河川の危険性に関する認識の実態をそれぞれ把握していく。

(1) 自宅の浸水被害可能性に関する認識

図 3-3-1 は、東海豪雨災害が発生する前における自宅の浸水被害の可能性に対する認識の実態を示したものである。

- ・過半数の回答者は、自宅が浸水被害にあうことを想定していない。また、床上以上の浸水被害を想定していた回答者は、全体の 17% である。
- ・自宅の浸水被害を想定していなかった回答者の割合が最も高いのは名古屋市西区である。なお、過去の浸水被害の経験回数を示した図 3-1-4 をみても、同地域が最も経験した回答者の割合が低いことがわかる。

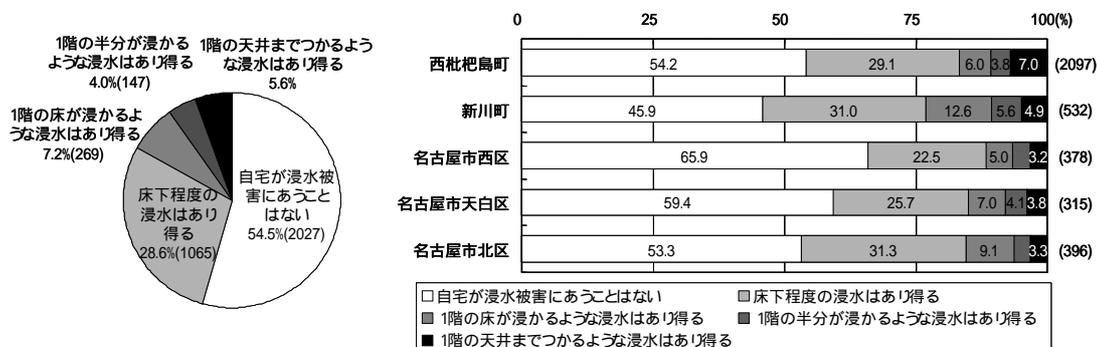


図 3-3-1 被災前の自宅の浸水被害可能性に関する認識

(2) 地域の洪水に対する危険性に関する認識

ここでは、地域の洪水に対する危険性に対する住民の認識を図 3-3-2～図 3-3-6 に示し、地域毎に把握する。

西枇杷島町

- ・ 水害に対し安全な町と思っていた住民は 20%程度であるが、70%以上の住民は、今回のような水害が起こることを想定していなかった。

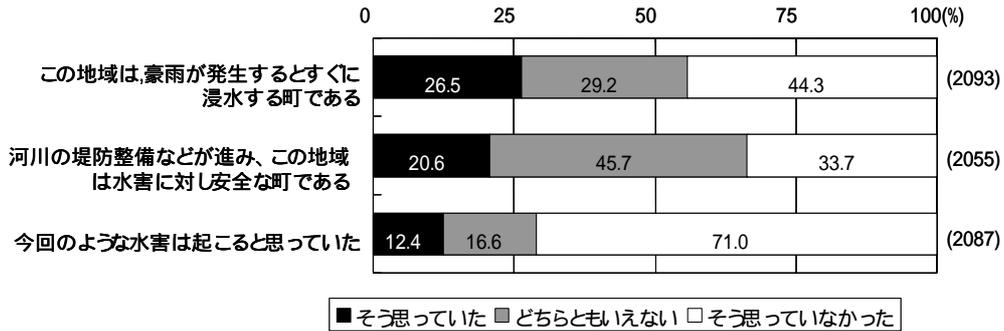


図 3-3-2 地域の洪水に対する危険性に関する認識（西枇杷島町）

新川町

- ・ 豪雨が発生するとすぐに浸水する町と思っていた回答者の割合が、5地域中最も高い。

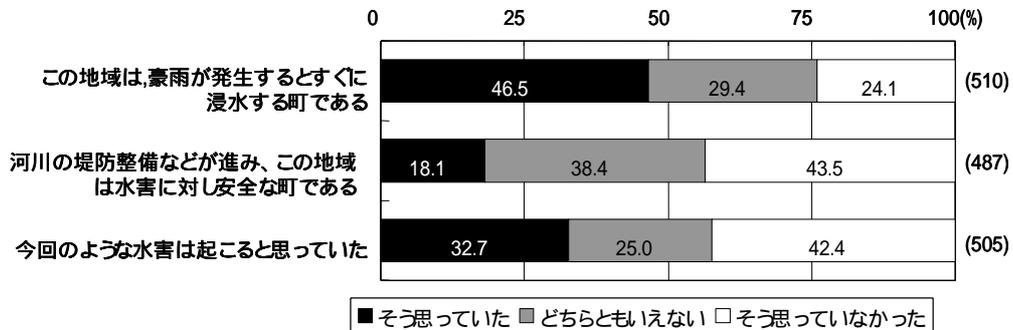


図 3-3-3 地域の洪水に対する危険性に関する認識（新川町）

名古屋市西区

- ・安全な町と思っていた回答者の割合が 5 地域中最も高く、7 割の回答者が今回のような水害の発生を想定していない。

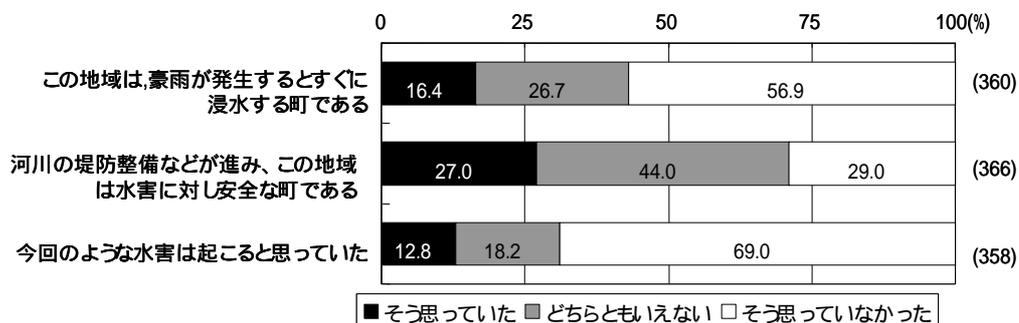


図 3-3-4 地域の洪水に対する危険性に関する認識（名古屋市西区）

名古屋市天白区

- ・ポンプ所の設置により甚大な浸水被害はないと思っていた住民が多い。
- ・東海豪雨災害の発生を予想していなかった住民も多く存在しており、この背景には水害に対する安全性を新設されたポンプ所に依存する住民意識が影響していたものと考えられる。

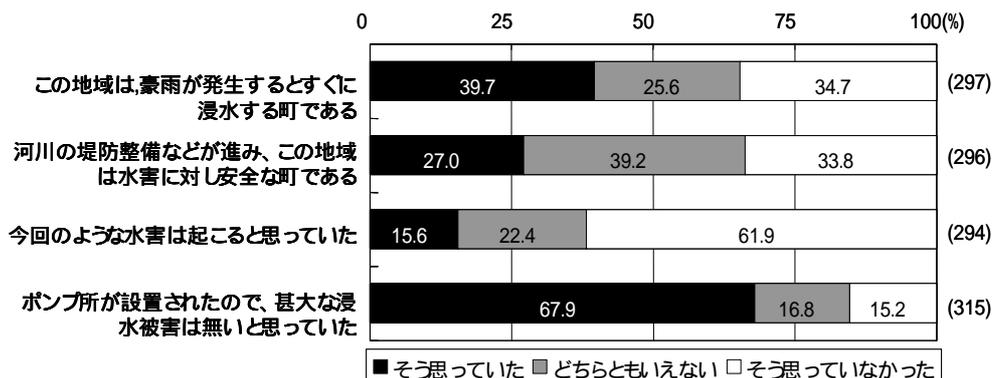


図 3-3-5 地域の洪水に対する危険性に関する認識（名古屋市天白区）

名古屋市北区

- ・新川町と同様に、豪雨が発生するとすぐに浸水する町であると思っていた住民が 40%と高い割合を示している。これは、同地域が平成 3 年 9 月の台風 18 号により水害被害を受けた住民の割合が、5 地域中最も高いことから、過去の水害経験が影響しているものと推察できる。

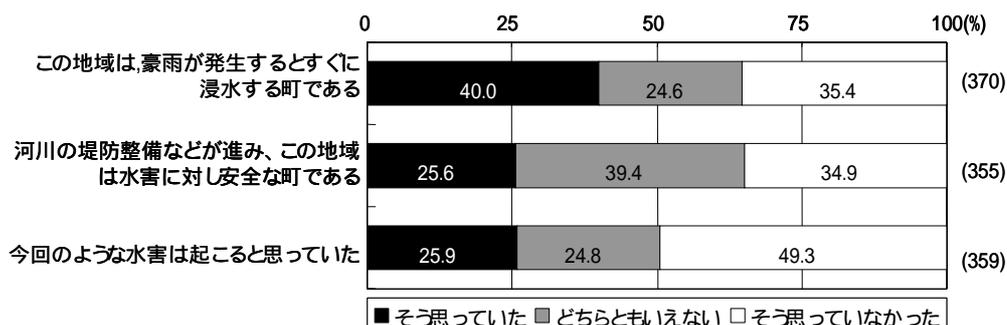


図 3-3-6 地域の洪水に対する危険性に関する認識（名古屋市北区）

(3) 洪水の発生や河川整備に対する認識

ここでは、各地域に関連する河川について、その洪水の発生や河川整備に対する認識の実態を図3-3-7～図3-3-11に示す。

- ・全ての河川について、破堤や溢水の発生を想定していた回答者の割合は50%前後を占める結果となった。この結果には、水害直後の調査ということによる影響も含まれるものと考えられる。
- ・上記に関して、全地域とも、前項で示した今回のような水害が起こると思っていなかった回答者の割合と比べ、関連する河川で溢水や破堤を想定していなかった回答者の割合は低い。
- ・西枇杷島町(図3-3-7)と名古屋市西区(図3-3-9)において、新川と庄内川を比較すると、庄内川の方が堤防の整備が十分であると思っている回答者の割合が高いにもかかわらず、溢水や破堤の危険を危惧する回答者の割合も高い。これは、新川よりも庄内川に対する危機意識が高かったためと考えられる。

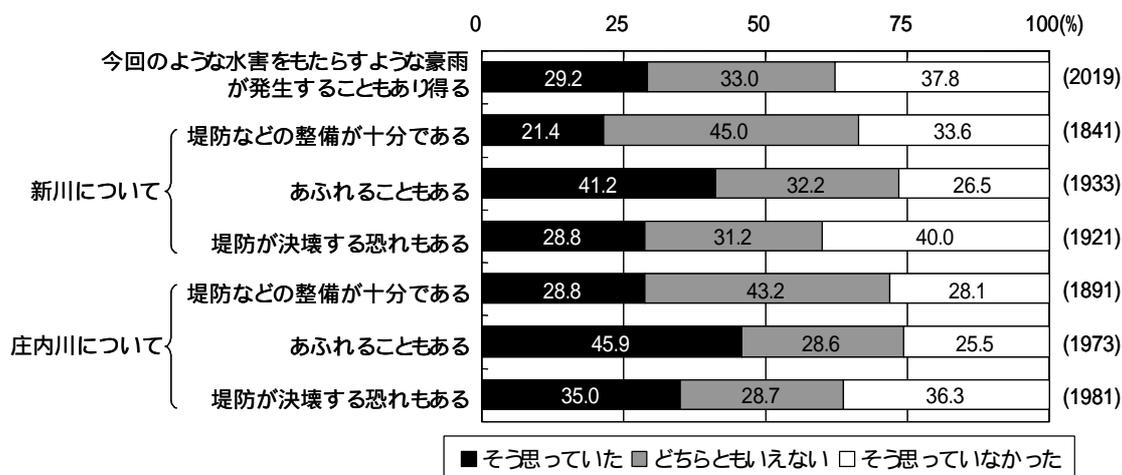


図3-3-7 洪水の発生や河川整備に対する認識(西枇杷島町)

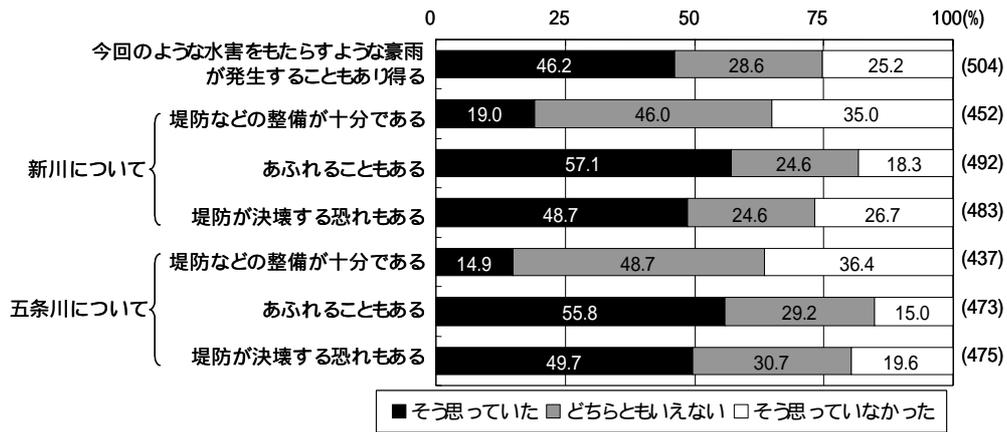


図 3-3-8 洪水の発生や河川整備に対する認識（新川町）

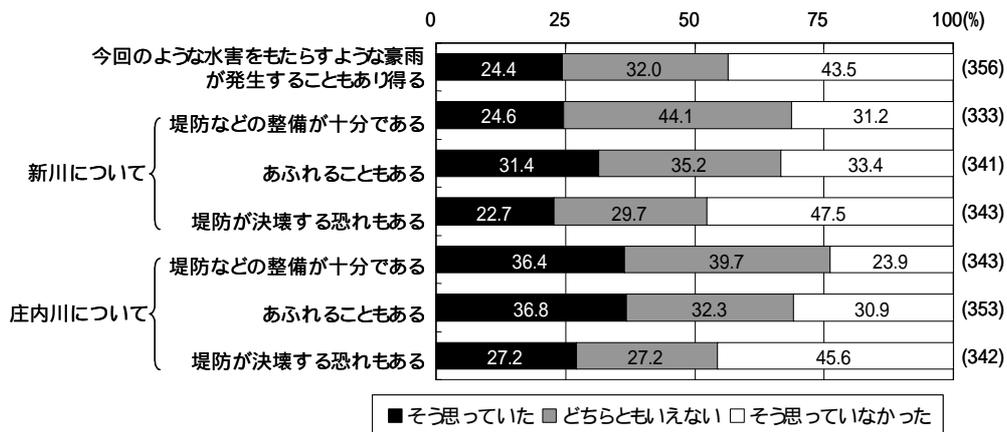


図 3-3-9 洪水の発生や河川整備に対する認識（名古屋市西区）

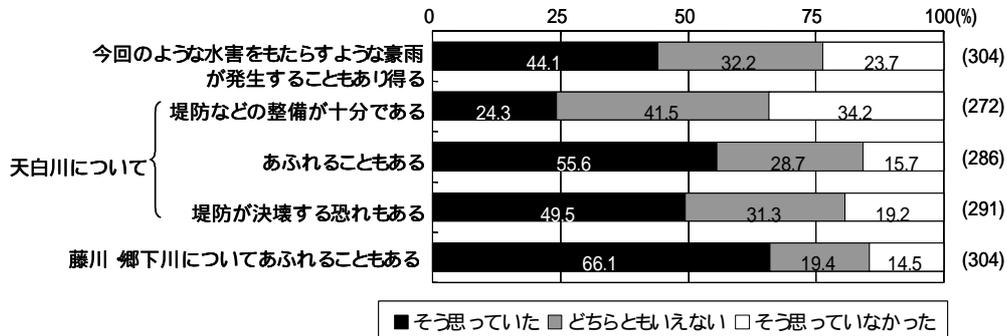


図 3-3-10 洪水の発生や河川整備に対する認識（名古屋市天白区）

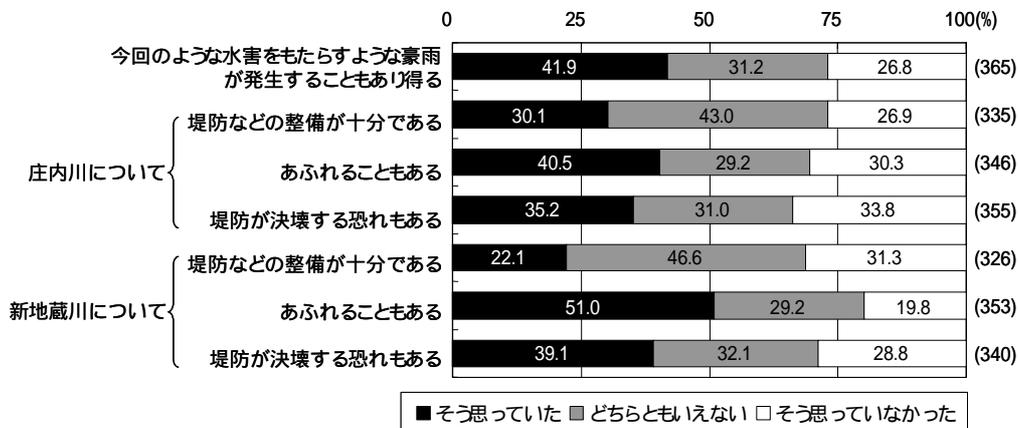


図 3-3-11 洪水の発生や河川整備に対する認識（名古屋市北区）

(4) 災害に関する認識

ここでは、さまざまな災害に関する住民の認識の程度を図 3-3-12 に示す。

- ・台風や暴風雨、また内水氾濫を気にかけていた（いつも+しばしば+多少）回答者の割合は 70%以上であるが、外水氾濫を気にかけていた回答者の割合は 50%未満である。
- ・地震や火災と比較すると、外水氾濫を気にかけていた回答者の割合は低い。

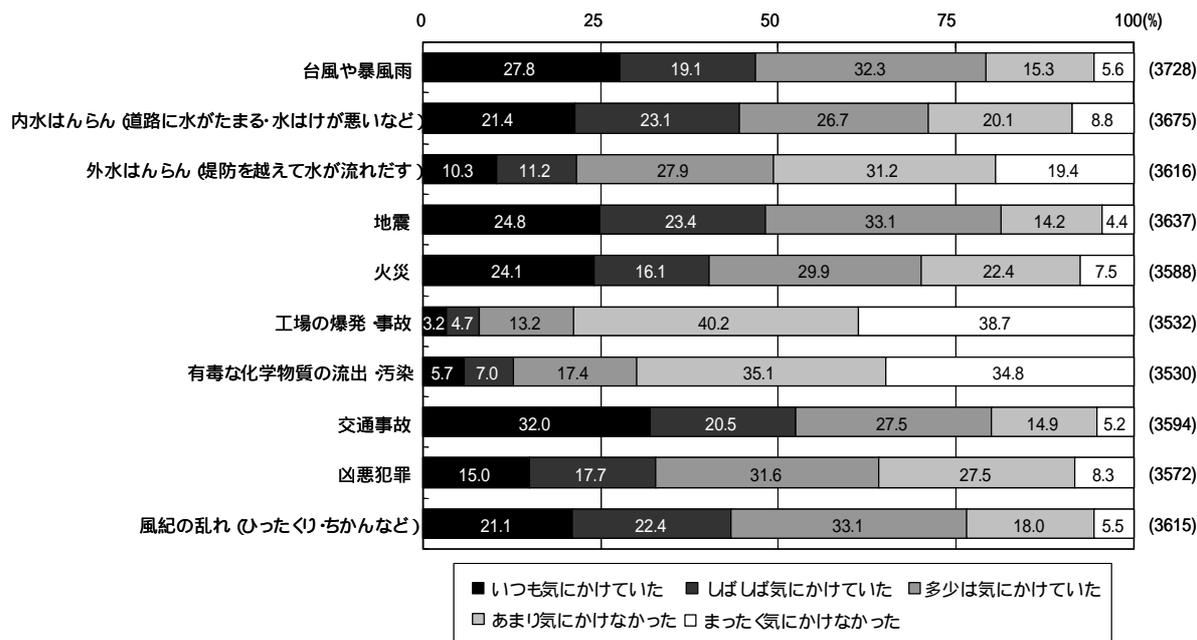


図 3-3-12 災害に関する認識